

平成20年度 科学研究費補助金（学術創成研究費）
事後評価結果

研究課題名	消化器癌の転移機構とその治療の研究	研究代表者名 (所属・職)	武藤 誠（京都大学・大学院医学研究科・教授）
-------	-------------------	------------------	------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄	評価基準	
A+	期待以上の研究の進展があった	
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

がん細胞が生体の中で組織の環境と相互作用しながら悪性化する仕組みの解明は、現在解明が強く求められている課題である。本研究課題は、この問題に正面から取り組み、マウスの遺伝子操作技術を用いて、世界で初めて自然発症の腸がんモデルマウスを作成した。このモデルマウスを用いて発がん及び悪性化の仕組みを明らかにし、さらに転移のメカニズムについても多くの知見を得た。特にがん転移を抑制する新しい遺伝子を発見したことは特筆すべき成果であり、新規治療法開発につながると期待される。設定した目標に対して独創性のある研究を展開し、高いレベルの成果をあげたと評価される。また、成果は一流の国際誌や学会での特別講演、ホームページなどで公表されており、今後の波及効果も期待できる。